

## 理事長のごあいさつ

## 理事長就任にあたってのご挨拶



和歌山地域経済研究機構

理事長 吉村 典久

【和歌山大学経済学部長】

和歌山地域経済研究機構は、和歌山商工会議所、和歌山社会経済研究所そして和歌山大学経済学部の三者によって1996年7月に創設されました。その後2008年からは、和歌山大学に観光学部が設置されたことに伴い四者が協働する形で、和歌山の地域経済・社会の活性化を目指す、地域に根ざしたシンクタンクの機能を担う組織として運営されてきました。

地域の皆さま方からは多大なる支援をいただき、順調なる発展を遂げて参りました。

今、手にとっていただいている『地域経済』は、機構が取り組んでいる各種研究の成果などを速報するものであります。成果をまとめた報告書等は1998年8月の『No.1-a 提言 紀淡連絡道路を実現し和歌山地域の活性化をはかるためのグランドデザイン』（代表研究者：小田章・和歌山大学経済学部教授—当時、前学長・名誉教授）からはじまり、2012年3月の『No.23 「和歌山市の幹線公共交通網の再構築に関する研究」 和歌山市交通まちづくり研究会報告書』（代表研究者：辻本勝久・和歌山大学経済学部教授）を提出するまでにいたっております。現在も、「和歌山市まちづくり」「和歌山市交通まちづくり」の研究会が活発な研究活動を展開しております。

今回、私は和歌山大学経済学部長に因らずも任命され、さらに本機構の理事長も拝命することになりました。浅学非才の身でございます。副理事長となられた山田良治・和歌山大学観光学部教授／観光学部長をはじめとする理事メンバーの方々、機構の運営に携わってくださっているの方々、そして地域の方々、皆さまに支援いただきながら、本機構のさらなる発展に向けて尽力する所存でございます。

私は経営学（なかでも経営戦略論）を専攻とするものであります。そのため、地域の中堅・中小、ベンチャー企業の発展に向けての支援につきましては、和歌山県の委員を務めさせてもらうなどしてまいりました。くわえまして、和歌山市の行政評価の委員を務めさせていただくなかで、行政全般の運営のあり方について学ぶ機会も頂戴してきました。今回、理事長を務めさせていただくなかでは、和歌山という地域が抱える諸問題を再度、見つめ直すとともに、数多くある魅力についても学んでいきたいと考えております。

仁坂吉伸・和歌山県知事は折に触れて、和歌山は「課題先進県」とであると述べられているようです。これは、東京大学総長を務められた小宮山宏先生が書かれて話題となった『「課題先進国」日本—キャッチアップからフロントランナーへ』（2007年刊）にある議論を受けたものです。日本という国家は、人口動態に関わっての少子高齢化、経済に関わってのデフレ、低成長、さらにはエネルギーや自然環境にまつわる諸問題など、さ

まざまな課題に直面している。いずれの課題も、世界中の国家の目前にある、あるいは遠くない将来目前に来るものである。日本が先に直面しているそうした諸問題の解決に向けて、「フロンランナー」として努力を払っていく。解決の暁には、日本は世界における真の「フロンランナー」となり得る。こうした議論が展開されています。

仁坂知事は、日本の各地域の中でも和歌山という地域は、こうした諸問題に早くから、そして由々しきものとして存在していることを指摘されているのです。そして、その解決に向けて全力を尽くし、和歌山は課題解決先進県とならねばならぬ、と主張されています。

現在の和歌山と他地域、現在の和歌山と過去の和歌山。各種の調査結果を見る限り、知事の指摘は実態を正確に反映したものであります。また、そうした課題の解決に向かわねばならないとの主張にも当然、首肯するものであります。

機構としては、こうした諸課題の解決につながりうる研究を進めてきておりますが、今後も地域が抱える経済、社会に関わる問題の解決の一助となれるよう、機構の活動をさらに活発なものとしていきたいと考えております。

皆さまの本機構へのさらなるご支援を宜しくお願い致します。